伊勢物語 上下 合一冊 全

京乙/289

国立国会図書館 タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 京乙-289

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 京乙-289
ガラス使用

伊勢物語上之巻

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』　請求記号 京乙-289

ガラス使用

伊勢物語 上

初段

むかし男ありけり。ふりにしあまりなりけれど、なほ色めいたる女ありけり。この男、かの女のもとに、いとねんごろにいひかよひけり。されど、この男、かしこにまかりてのち、いとまめやかにあらざりけり。もとより、かの女、この男をあやなくうしと思へりけり。されど、この男、なほ、かの女のもとに、いとまめやかにかよひけり。男、かしこにまかりてのち、心変りしにけり。されど、この男、かの女のもとに、いとまめやかにかよひけり。男、かしこにまかりてのち、心変りしにけりとは思へど、かの女、この男を、あやなくうしと思へりけり。されど、この男、なほ

二 昔男ありけり。ふかくこの京にはあらじとおもふ。京の人の家まぐさきまらうどにしけるに、女はらからあり。その女世にいとよしとおもへり。その女、人のもとにとかくいふめりけれど、なほさらにうちとけずのみもあるに、男、うちはじめてのちのことにやありけむ、いとねんごろにいひ

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 京乙-289
ガラス使用

とよりけをびいてこゝろ。なやこゝろ。あるじゆゝしてぞ。二条后宮
思びて。ありそうと。世の中へ。ふけをびぜゝど。逢ずもあらざりと
六 昔。男ありけり。女のえゝ。海ごゝろをまとへてよばひ
けりそうと。ゝうぎそぬすゝ。出ゝくいとくゝきふこゝろ
あくた川とゝ。海とおゝくいきけをび。業のゝへゝをたゝり
ゝふ。雨をぬれいなにぞとたゝん。男よとゝひそる。ゆくさたおく
く。雨をとふけよそれば。おゝよあゝ。ゝ。ゝ。

行くすゑのくもゐあさぬのごけのようげつのうみとアたく
（古今）むさしのゝあさぬのごけよくあらば煙たちくらべのこゝろ
九　むかし男ありけり。男ありけるのわたくしの方をえうるにあらざりけ
れども、京にはあらじ。あづまにいきてみまほしくおもひ
たちけり。もとより友とする人ひとりふたりしていきけり。
みちをしらぬ人もなくてまどひにけり。すゝきのおほくはえたる
のなかにありけるとをりすぎがたくあるに、かりぬべきかた
ちしたりけれバ、かりのこゝろをやまるにたりてうゑハ
ばゆくかのくもぞなれば。
かりとしらでのさらぬうきなりけれ。本のもとにおりゐてかれいひ
くひけり。そこなる水に、かきつばたのいとおもしろく咲たり。それをみて
ある人のいはく、かきつばたといふ五つのじををくにして、旅
のこゝろをよめとしいはれ、侍ける
（古今）から衣きつゝなれにしつましあれバはるゝばるゝきぬる旅をしぞおもふ

とゝめりそれば皆人うれいひのふ泥おとゝてゝとびてそう行く
てすゝぶれ雪はゝりぬ。たのゝ草はゝりて。づいんとする所にと
くゝふそそにはきとゝへでいまぞ。拾ひぞそくずゝかるめとゝる
事とゝにすゝ行去あひゝう。ゝ。ゝるゝ所にいでらいまするとゝをゝれ
べみゝ人なりそう。ゝにを人のれゝりふとてゝみゝきてたく
するゝなるゝつれゝびゝゝたゝにそひあもゝくよあゝぬゝりそう
ふゝの山ゝたゝれゝさ月のはゝゝりに雪ゝとゝろゝゝふれ梨
はゝゝぬゝ山ゝふゝのねいゝとてゝかゝのゝとはゝゝに雪のふゝゝ蓮
ゝのゝ山ゝゝたゝとゝへゝひゝのゝ山とはゝゝたゝゝらゝゝかゝさねゝゝゝゝん
ゝゝゝゝてゝゝゝいゝゝゝゝゝのゝゝたゝゝゝゝゝ

まつのうへにつゆのこるとなくれる三吉野のうたむのうとうらとれん
やうにんのくにてもうたのうたのうたうまんやまざりまるふ

十一 むし男あづまへ行さるふ友ごらどもにみちのくのひとをたる
捨きと
ひとりとりよりおどろきあふ茂ぬともうゆくはのめぐりあまで
十二 昔男ありけり。人のむすめをぬすみてむさしの国へ行給ふ。
ぬすみて人のいへりけるとぞ。ふのうみよりあられのうり。女をいとまむ所に
とりきてあげよりうりたる人ぞ昔男ありとて女をつれんとに女まどひて
ひさう 女をいとまむ所にふるやきてつれ出るはつかりはまもなくれりはまもなくれり
とりみるをきして女とびとりてにげうふのていみのうり
十三 昔むさしの国なる女のりふきこゆれば行ばじきこえ行ばじ
とうきてうへにむさしあづまとにてどうせてはまもせば茂れば茂る女
むさしあづまにふりけてたのむよりとうぬもはしとうもうはさ
やあるはいとくなんそくぐるとうちーける

とへばいとうとうはうむすめ。ぬすみおりあり人をたのみ蘇
十四 昔男。こらは国へずのうよ行ひうりにたり。ろこれる女京の人ハ
めづらやおどろんぞうらにとへるんみけぼくらの女
中くにおひまるどらくこまずなるどるるまれをだうまま
うとうへそひうるびうりけるぬちうふあうれうやおひうん。
いきて行ようり。茂ふりく出ようれば女
茂とあけばきつるみうるでくりけのまうれるいてせるとありつる
やいつるうり。おとこ京へうんまるるとうて
くりくのあひのおとうへうるやこのはうまるざというまう
とうりけるびうろうびひてうひうしとうぞうひをうりうる
十五 むーみちのくにてぞうたうれきへのやうのうひうふ。
あやーうまるにくあるぎ女もあるどみうれだ
たのびふたのびてかうみちうれおもうるべ

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 京乙-289

ガラス使用

女ぎりのくめてにとゝへどもこるさゞれさゞんびをゝ
(十六)昔きのありつゝとしてゝ人宿をりみよのつんりゝふはゝまつゝて
はふあひそれゝはゝ世ゝりはうつりよそれゝはよれつゝひゝのおとも
あゝゝゝ

十九 むかし男、女はらからにけるを、女のかたりけるを、あひ
きかりけるを、男、いとかなしくなげきけり。おとこ、女のあるはた
つゆゆるしてけり。男、いとかなしくなげきけり。おとこ、女
はたつゆゆるしてけり。男、いとかなしくなげきけり。おとこ、女
のあるは

今はとて京へ帰る道のほどいと心ぼそくて
つまとしれる人々ばかりにて
人々ものいひかけずいとうとましくて
京なるんとありしかのこゝろいとあはれ
中ぞらにうかぶ雲はあともなくあるかなきかの
とはいひそれどもをのゝ世にすりたれば
世二 昔男ありけり女の
京なる人をいとねんごろにちかうて
やがてかりけるとしの十月
あひそなんひとつとかいまのあれるすゝしとそこの
とらひそれどもそ秋いとさりしかへゆきのるとるとこいひて
秋の秋ちゝ紙ひとつふるゝへてやちゝ紙ゝやあるゝ時のあん
はれよあちゝを一秋よあやうとも
あとゝのこりてをるやうにあん

いふ人へよりもおとれりそなんかひとひそる
世三 昔男ありけりいとしけるゝ人のゝ
をおとゝかよあるそれが男も女もいとこゝろぶかくてありそれど男は女
はいとそえめとわりゝ女はこの男をとゝひつゝ
どゝもきうそなんありそるさてしばらくありの男乃りとりかくなん
津の国なる井筒ふかくしまろぶけすゝにおひもとんざるまゝよ
女 くらべこしふりにしかどもかすぎねる男のゝたゝあるべき
などいひくてつゝあるよそわれゝくあひのようさて年ごろふるゝど
よ女おやなくたよりなくなるまゝにいとひるくてあ
んやうくかくちの国なるやとのこゝろよきかゝふ所のべき
ふゝりさりけるとしりの女おとこゝるけきもるくていとし
やりそれがれとこゝろとこゝろありてかゝるやあんとゝひう
さびてせんざいの中にくれはてゝかくちへいぬるかゝにてそれ

び女いとよろこけさうじてうちうめがめく
夏風にみびおきうちるこゑぬつ
とよみやる後きてかぎりなくくれ
ぬるまれくこのそらやとにきてこれば
けまぢかうちとびてほぎらいぬぐひとりてぱごのうへ
なるとんてかうりていぎぞめ
秋まのて若がおうりつんはとをちんいと
やぢひくくつんいぐちとにかくじて
こびこゑまつアぢめびくすぎぬまび
夏若えんといひ衣どふすぎぬれびるのまぬのこひつぞる
とぢひこゑまどおとこちまびなりにそり
(塩)むかし男ぢこわなるふすみそり男こゑばちへにそぢを
おくこてゆきにてるまにこちけまびぢうまびうけこう。

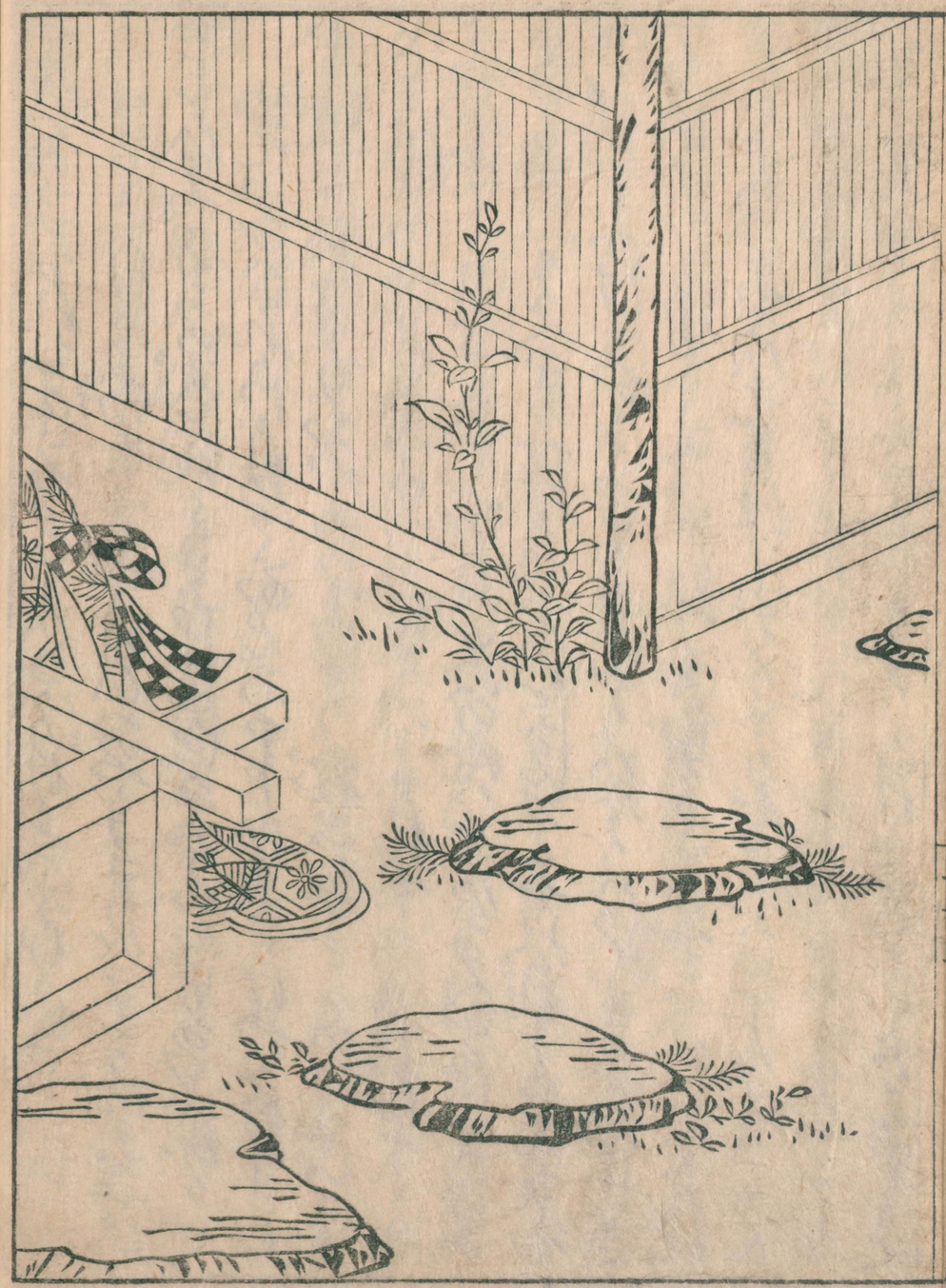
いと念ぜらいひそるに人よおそひあんとちぎりうそるぶに男きこう
そりぶにあけぬへとあけぬきそれどあけで。ふとうんよみく。出うける
あくむの年ぬみとを紙結ぶしそあぐあそひこそるね松を紙
とういいぐしありけもべ
たづさらまねこつきゆくまとへくびをしらおとうるこせよ
ぬそいていすんくそ紙べ。女
あづさらひけどひくどむくよりふきみよりふし物と
とういひそれど男うくりにそう。女いとうれくて。ありにらてそひゆど。
えくひをいで。ちあのをあるまそうそ。ふいそよびのしにて云ふそる
あひふぞかれあるくをとめうひづふいまぞきこそぬめる
とかきくそこふいづくにたりふそう
(廿五) 昔。男みそう。あづともいえばりそる。女の子すがをそるづりそひかりそる
古今 秋の野よりくまを紙の神よりもあづでめる松でひらはさうけふ

いろごけくなる女うくし
古今 つくれめるにつる男をくくとあくねどやれなであまれけるくる
(廿六) 昔。男。女の家をさうなる女とえてむ紙
彩色本 おのそこど神ふみあのさづくれりるくづひるくしばうよ
(廿七) むくし。男。女のりくふ。秋いこそて。ふもいくどあるそれば女れる
あくくあふぬきを紙くりりて。そくいのづあふんくるとぞづる
つまづりあるりくあじとるくあのをこれも有そう
とよくむをこざりけるおくくこうらきくて
みをくらに秋やくゆんかくづさくあのをこたてるこ忘ぞく
(廿八) むくいろごのくなりける女。出くいかそれで
なくてうくあづかくふ女くそんありくけどむをびゆを
(廿九) 昔。春くの女にりくこのあのかくよ。あづをくれうけるよ
そくよあくわづけきいつもせくどもけのあくひよみ紙ハ

三十 むかし、はかなくなりにける。女はてのこと
あるまとゐのもとにはりおきてはきけるのなごりにや
廿一 昔、えの四まきあるごとくのはぢをひきまくをにうゑたる
のあさましくなりにけるを、やまとなでしこよりもなんさかりなりけ
はみなるをとこをうけへうまれまをのぶるをみてとりてなほ
やをいでゝをゐるを女もあるもそうに
廿二 むかし、西の京に女ありけり。年ごろありて
いとのもとをすまにけれどもしのびにすまうもふ
といひけれどもいとかたくやまこと
廿三 昔、わかくこはの国むづかしのこをりにかくひける。女はてびき
いきていとなんとおもひけれどきゐれば和とこ
万葉 あづまうみをみらくるおきのいやまにあるあれ
くしこしのいはをいでゝなみをいたみかくれてまろびき

わかくひとのもとにいかくはよりやあるや
廿四 むかし、わかくこはもとにけるこのもとふ
いとがえをいとなびむ和ゐにはそれてんひとのまをげくこゝろ
おもふをてゝいとほなるべし
廿五 むかし、ふかくもいかでやこゝろ人のもとに
むのををあををにうゑてむすべきびさてはあらもあんとそこゝ
廿六 昔、ひとれわるをみめりとそひざ
万葉 若せをみアねまでそこるをみづ
廿七 むかし、男ありけるこゝろ。女にあるこゝろ。やとひそん
我をでまをひとくをみがくのゆるぎまをあをはよりとも
くしふるをしをむとびしひ成独てあひこゝろまでいとこゝとをこゝ
廿八 昔、紀のありはをのりいきこゝろふあるきておそくきにこゝろふ法てやけ
天にはりふるひぬ世の中はにくをひとをいかれをやこゝひとをいかる華

ゑ
ゐ
ゐ
ゐ



国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 京乙-289

ガラス使用

いとをしがりけまいときよらなるろうさけうのきぬとをぬいて書とて
むさしのゝくさ〳〵ろうるめべし
むさしのゝくさ〳〵ろうるめべし
(四十三) 昔男ぞこぬことちるく女をあいしてそりされどおとてこうざう
けりまをくいきそれどもいとしろやうく〳〵さるとていでさえみほうり
そうもなくえんあざりけるおうなそれば二月三月ばかりさるる者をあいてくる
出てにしあとをふいまぐろびじをたがめひらといはやうん
ことのくさうさにとあるなるもそう
(四十三) むかしをとこありけりそうもみと女をあいし
めていとめでくめぐしたらくおひいそうをとゝるはめにて有るを我
のくことをひそうとみ人やみてふみやるやとくきにのゝ我かきて
はるなるゝ里のあまくさいもいるきいとしのくれぬとゝ
といりこの女けしきをくうて

くんのくしろちぐれ田長はけさぞうくいそうあまるとうとまれぬまとハ
ときはず月よなんありをる。わとこうへ
いそうおうきをでのあをさハわがのむ我すむ里に夢をこそハ
(四十四) 昔あづまへゆくみちにすむけせんとてよびてとゝ沢のおいざりければ。
あづまじをあをさせて女のさゝぐをうんとて男ゝ沢にて嘗にてはひさて
ゆくえぶたやあとぬきうれば我さへもゆくかりぬべきあ
ひ所へあるうのふおりうれば山ゝめてよあをさにあらひて
(四十五) 昔男ゝそうゝくのむすめはくいうぐさ男にあいんとゝいそう。
おとんうのかくやそうんあやこにうりて夜べきはよくこそとゝ
いそうとおやゝ身てうくはげうさうはまびはまびありけるとこ
ればつもくとこうとうるゝ時ハみの月の海月くあつきころかひはひ
ハあそびをうて物ふけてゆすぎ風吹そう雲そうくれそうゝ男みまて
在概 行雲をのこまでいぬべくあるとうこせ

くもゐぐるこれをの日くしおぐむれびろのまくくおくはぐれき

四六 昔男ぞいとこころのうきをなほ有けり。かゝるほどにあひそめてける人の

のもとへいきけるとていとあはれなりけるほりへてをこ

せこうくよあさまくしくあいめんせずはるのくへはけるすがたをそれ

やうくあひよくんとぞいるくおもひこじてうん行る世の中のくの

ぬぐるれびつをそれぬべきおもひてあるれとくりそれば猶くあは

めぐるもあるとうくにまくにおそれおるおもひ

四七 むかし男ねんごろにいふとこそよ女おもひけれどさはてこて

をあるなりときくてはれるさのくに海さりにくいる

古今 おもかぬさのにてあまくに成ぬれおりへどえおそこのまざりけを

くしあはく

わかぬさて見ふこそそれなどれてもつのよるせいありて我を

四八 昔男有けりるのそかひけせんとて人を待をるをこざりけをバ

古今 いまそでをるこにきおとくんちくをびくれどとこへるをり

伊勢物語下巻

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 京乙-289

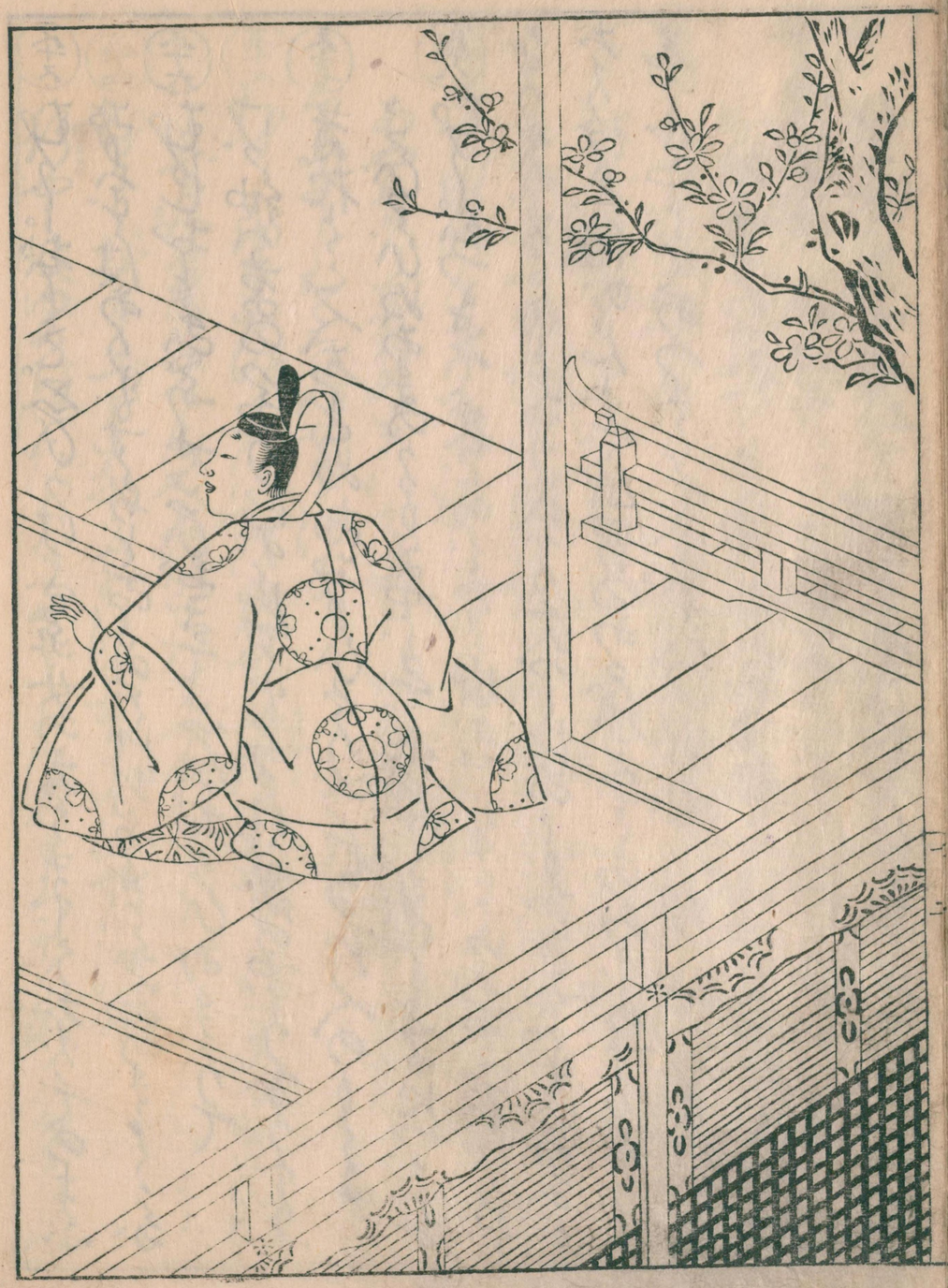
ガラス使用

伊勢物語下

㊀九 むかし男いとりなりけるをとこ、ありけるを、
うしろみ、はらからなりけるおとこ、
やまとにきこえやりける。
むかしのかたちをかしきをとこ、
㊀十 むかしをとこありけり。むかしの人をしたふ
とりけるをとこ、
あさはのいきえのこりてしきめど、
まさりけるこ
ゝろにはあだなりけるもあるを、
又女ゝ

りゆきをかくよりもけうあるたいこもちをとめんをとりそう
ゆくあとをすぐるよりひとちるえといづれまさてふとふ花きくん
あざとくべかるみよまさる男女のあいびあり きあけるゆるすべし
(八十一) むかしおとこ人のせんざいきくうへうるあ
うへうへはなるときやさうばんたてそちるあ花をうへかやや
(八十二) 昔男ありけり人の妻なりけるをとりてのち
あやあり君はあまたにぞはべりける我は世ふ出くるぞほびさ
とてきぬをうんやりける
(八十三) むかし男あひがたき女にあひて物語するほどに夕のみきれば
いでゆくるのあるんへまれどかりふるかまぐ夜ふかたり
(八十四) むかしおとこつまふるるけるをよびひやりける
行やゆくぬゆくらとたどるくやとあはあまるそれるあやをんん

(八十五) むかしおとこ人ひとけうるえ女のえうまぐうちりてのよふ
おりはぐはりもすあとさてのえれれるふどふあのまるくうか
(八十六) むかしおとこふせこひおさてこひおりひあまりて
ひぐ独ハ苦のいりにあねどもうれば家のやどうりうり
(八十七) 昔おとこ人きもぬおりひりづれるえ人のりとま
こひるびぬあまのうるよやどうそうられるかをもるえつるる
(八十八) むかしこつきて女ごのこかる男のあがたるく
きうりうこのとあり成るえぐらにおとりかき女どものあるう
ちりけまいはかんとてこ男のある成るえくいみどのすえりのく
きうるぎやとてあつまりて人まれべこ男ぶげておくれなれば女
あれなりあれいくよのやどあれやすみえんのをとづれもせぬ
やこいひてこうやにあつまりきあそあるえれべおのおくく
むぐおあれる宿のうれうれいかりあれすぐかう

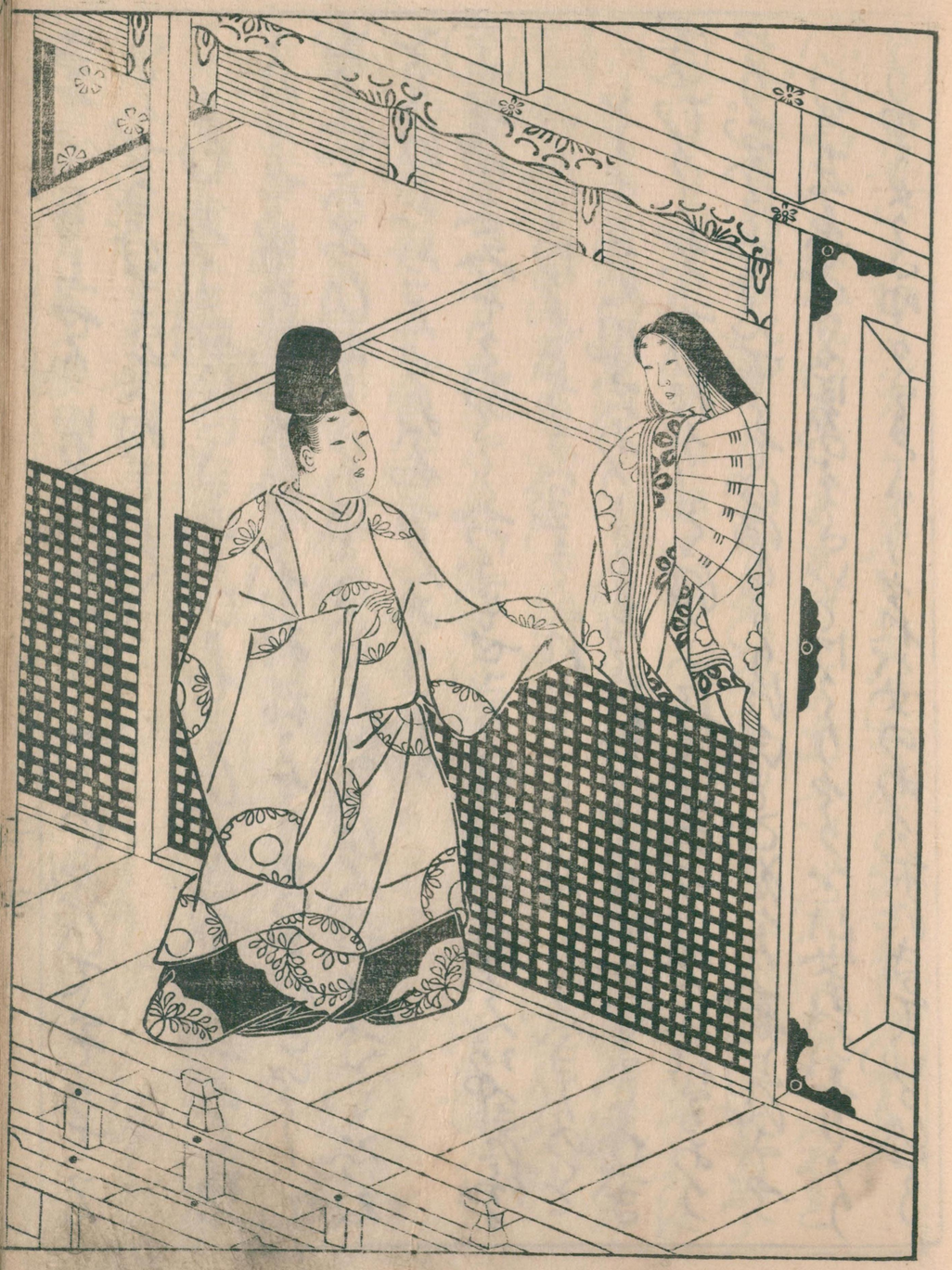


国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 京乙-289

ガラス使用

とてうん出しうけるさ女ともぶひろうんといそれで
うらうまじてちらぶひろうときうませが我ゝ四つ[illegible]ほ地を
五十九 むゝ男京といぐふひうんひんぐゝみすまんとふいうく
すみうまじぬ人ゝ四ぎうとふぢゝふ方を四くうべき宮ゝあてん
四くて拍ゝうゝそゝ志に入うけまびおりてにあうそゝ花をじていさい
ぐうゝ人は家でをくかう天の河のとりうふひれうい乃ちぢゝう
六十 とうんいひくいき出うけりる
昔男有りけり交ぢうへいそぐ[illegible]ゝ四もまあなゝざうける
狂のゝへどじまあふうんとうゝ人はつきて人乃四へいはうゝ山男
うさのはうひいてゝぬきけるふあうふ四の志ゝそれ女人のゝあてうん
ゝうとはて女あうゝにゝうけとうせよ。ちゝぞへのまゝどいひそれ
べかうけ交て地ゝうゝうふさうふなりけるあらゝ花をとりて
さつきまつ花ちゝだれの袋げゝむゝみ人の独乃四ぞをる

とひひうゝにぞゝひ出ておまゝあてゝよゝくゝぞありける
六十一 むゝ男はくゝまでいきうゝうふこれいろこのむを
いふずきうのとすぐれのうらうすれ人のゝひうるをきて
おまさ うめ河をはうん人はいぞうゝいろよあうてゝまこのあゝん
女うゝ 投擲 名ふ おうぐあぐにぞ昔べきたれ波のめれぎぬきうふあ
六十二 昔。多ごろをとづれざうけるる女ふ四ゝうくやあゝざうそん。
うゝ人はのゝふはきて人の国なりけるうよつられてりと
ゝ人乃ま人ゝあいぞきくゝおくゝ世をどうよさうこのうゝ人
ふ人とおるゝにいひそれぬをこをうゝ男これをきゝぞやとて
いゝゝのみひいづゝはくゝもうこけるあゝともうにうゝ
とゝくゝとゝとゝぞかゝとふひてゝゝくゝもせぞあうゝとゝおどいく
もせあとうゝべゝ多ゝざのこゝうゝにあもヒ人をを拍もいそれさうゝ



こゝもとやこの我よあゝよるをのがれつゝ年月ふれどはるゝかなき
とゝひてきぬめざそとせそれど。撥てあるゝひつちゐるんたゝび
（六十三）むかし。世ざゝらばそゝる女ゝぞ。みかけあん男みあひえ
てゝぐるとゝくどゝひ。ゝんもたゝるをさに。緣をゝねゆめざゝう
ゝとをぞゝ人をよびてゝゝるゝ。ゝふゝれるゝかをけなくい
らへてやゝねざゝゝゝぬゝるゝゝんよゝれ男ぞゝそゝん
とゝはするゝは女けゝきいとよゝゝおとゝくいとゝかをけな。
いゝぞゝざゝゝゝねよゝはせゝしゝゝとゝゝゝあゝ物ゝ
ありきけゝふゝいきゝあゝゝてゝたゝるゝのゝらゝとゝれゝゝゝゝく
ゝんゝゝとゝゝひゝれゝゝゝゝゝてきゝて。ゝゝゝゝ。梅のゝ男ゝ
ゝゝりけゝゝゝ女男のゝゝよゝゝゝゝゝ

きてうちうちせうの男うの女はせーゆーに思ひてそうてん
をべの女うのげーさてぬとーく
さむしろよ衣うしきまくらひりやうひーきくよあらでのこ初ん
と後ろと男あれこふひて天禄ようそう世の中はまひて。
おりふとはうひおとうぬとびふうぬ拍とけ人ぬけりくとうふぬ
とうもけらめうんせぬふんあうりそう
六十四 昔男。女みそうふめこふつざうもせざうはをびつく物ん方の中ん方の
吹風ふつけーとうのさけおとぐれひまりーあはくいろくきりのと
ーとうとあぬ風ふあうとうもむすぐれたるゆうさぐうひまりーむくき
六十五 むかし。おとこけおうりーくはふ
そうおとこやすんぬこーてい海をうりけーとこおそう顔よんさふ
ひけうおとふ女そう男のまぐいとうけーりそうをけ女あひまりーそう
そう男女ぐーゆうさをとうそれば女のあうおにきてむうひそう

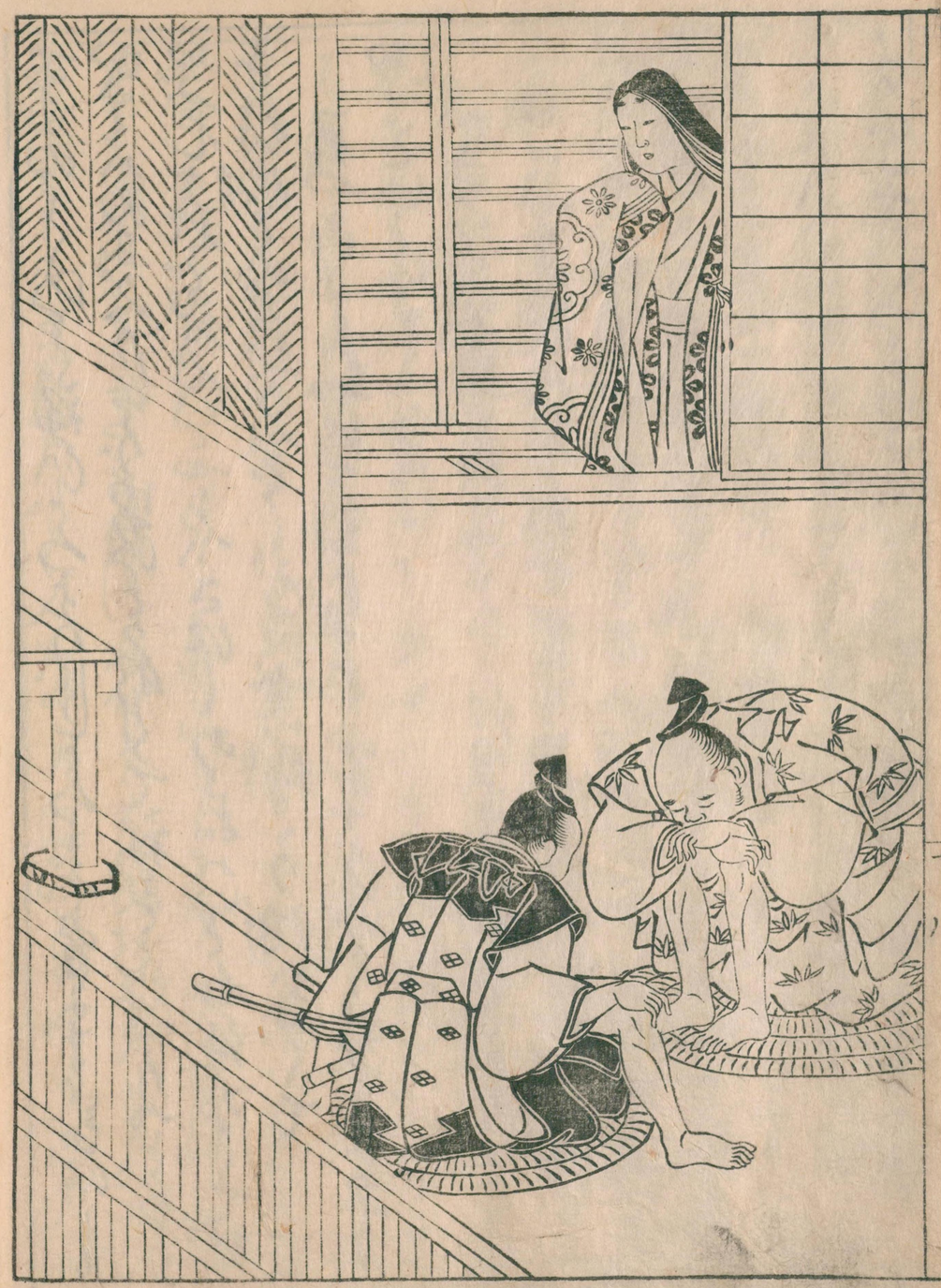
けをとバ女いとかくはちう。男もそうびをんぐーふせそとひををとバ
とうよふ去のふるおとぐそまけよそるあふふ人べはちをあーべあを
とーひてけーしにおうふへをとバをこのひみけーしにひ人のうんるとをうう
でのぐうのそれべけ女ふひるどのてはちーくゆくーされべるふのよれ
おーーふひていきかーうひそれべけ人ふ人きてるーひそうはうあ
てとのもづうさのうんるひーくりるおそをくにるけ人てのぐうりぬかく
うるふかーつありけうるふ。男もいうぐーにぬべそれべけかうり
そうびかぐーーとてけおくーくいふせんけーがかうるかやあうと。
仲うみふもけをどーいやはさうにのこあぐーうーかるうく
こひーーかくあぐくそれべおんやじかんをよどのてーこひせ
ーとういけーくくのぐおくくうんいきそうけーはくけうまくう。
いくーうをしきそうかどぐはをこけうそおしとうりけをこひく
のくおぐくそれべ

さひせずとみるしりよせうえそだ神くけどもあくけるうみ
とゝひてうんいよける
しみうどゝかうるらくおりゝ海てゝとけのけをけ
入くゝれこゝいとたゝくてゝ給ふをゆて女いるゝちき
くりゝかくるゝよたくふまくゝでゝずくゝせはくゝるくゝきるゝけ
男よゝざされてくくゝうんなくゝるゝかくるゝかどゝふみゝどきゝ
めゝはけてけ男とゝゝゝじつゝうゝてゝどれゝけ女のいとこれみゆて
不女とゝ海ゝでさせてゝくにこめてゝゝとゝうゝゝどれゝけくにくりてゝるく
あ海のくるゝにくゝむ雲の我くくゝゝゝ神をゝてゝるゝゝ世我ゝうくくゝじ
とゝおきをれゝけゝおくくゝけくにくゝりゝ我ゝおくくゝふきつゝふえとゝとゝおく
くくゝふきくくくゝゝおくくてゝあくれくくゝひくゝかれゝけ女けくくゝに
くくりゝるゝくくゝゝるゝにゝであゝるくくゝゝゝどゝたゝひくくゝゝきにゝもゝあゝゝでゝんゝゝたくゝ
けくくとゝゝゝゝくくゝゝゝゝ

涙とりあつめてかくれがをもとめゆくに、みちの人、伊勢の海とよびてあるといふ
海をみきて、蔦の紅葉ちりかかれるを、
とよめりけるにぞ、つねなくよりあはんとなりにそり

（六十九）昔、男ありけり。男、思ひ思はぬ世の間をなげきて、
のがれぬ所へとてゆくに、あやしきたのつくりのいとなみ
やれりけるにぞ、あやしのことなれども、ねんごろにいとりけり。
ハかりみじかくてやりつ。ゆきかへりつつ、そこにさせり。くて
ねんごろにいとなみけり。二日とりこめて、男、これてあんとしの女を
たちぬとあり。ぐしもおりてにさまでくめばけれ。えあはでつ
さねとある人、これがをくもやどさだ。女の子やもをくをそれで。
女人とまづめて、ねひとりぐらしよ男のたちよ来りそり。男はさ子
まさりそれぐのことをとんぐしふせるよ月のわかぐろするにちい
さにつ〳〵ひとさはよりそ〳〵ぐ人たちて、男いとうれしくぐめる

ぬるかくのひとくねひとりしてつまでなまぐまぐでも
ひとくはぬよりぐりぐり。男いとうれしくて、子ぐもをひとりぐつとあるく
いぐ思ひそれど。我人とやるべきにしあるねべいとを子ちくて子
をそれがかくれてまぐ〳〵にに女の子より泊まりすくて
えやさ〳〵れやりんおりもぐゆあうはくうちて
あとこいとこ〳〵うにてよある
かきくにに海のやにに海ぐひにゆあうはくとかまくひちぐあよ
と海でやりてかりにいぐぬ。ふありけとかいそにてごひぐよ
人まづめていとくあんとにてよにかくふのうくいつきの女乃
ひくうけさるかりのたちひまとなくぐ。表ひとよ海のみひそれべまち
あよまくもえぜでおけがとりけるふへくらあんとすれが男もへこれで。
ちのあみぐなぐせどえあぐぐ。表やゆりくあみのあんとする子ぐ女ぐ
よりいぐみすぐちぐとのさにに子とかきて出りぐりてアれど



国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 京乙-289

ガラス使用

かちくのまゝれてぬれぬるえみし　あまべとかきてすまへる。
ろのさゝづきさけちゝよぼのぬれのすがみて。ふのすゑをかきつぐ
まゝあふさうのせにいこへなりん
とてあくるとびとりけ国へおくるよそりて秋文ゐれの院の御
文徳天皇乃内むとめぶれあらのみこ乃いりゝかを

七十　むゝ。おとこ。ぷりのつりいとりうりきそるぬれぶとの
こゝろりよやどりていつきの文乃ひゝらべよ。ひゝをゝは
ふゝあるかゝやいづこぞ年ゝして神さゝへよたゝ乃稲あ

七十一　むゝ。男。せの無ゝよ。内乃れはひゝてまいれりそれば。
うの文。すにざといひそる。女こゝろ
ふゝやる神のめぐきもおゝあべ。おやゝやびのみまくれよ
おとこ
おひゝくいきてもみよらしちるふる神のいさむるふちるゝよ

七十二　昔。男。せのまなりける女ゝえあぐ。ぞ藤の国へいくとていみぐ。ぶべ

女
おゝよどのれいつくもあゝあくにゝみてのゝもうへるゝみゝ
七十三　昔そこに有とせそこそふゝあぬ女のあゝをゝひる
めふゝ乃ゝそ。ふれぬ月のゝられゝつのおとゝきゝまにぞゝくゝ

七十四　むゝ。おとこ。女をいてゝゝゝみく
いくゝゝかさゝるふにあゝ神ぐもあゝぬ日あゝくゝひゝゝふゝ那

七十五　むゝ。男。せのまゝよゝくいゝそあゝんとゝひゝそ秋ぐ。女
おゝよどのゝ海よおゝてゝ。ふゝるゝ。ふゝ。ふゝ。ぬゝゝゝゝ稲ぐゝも
とゝいてぐゝてゝはゝとゝゝりけゝもぐ。おとこ
神ゝれておゝまれゝりゝとゝぐゝゝ

女
いゝ海ゝりゝおゝるゝゝあゝつゝれゝくぐゝゝゝゝやゝんとゝやゝす
おゝとこ
すゝぐにぐゝれゝつゝゝゝる世の人乃ゝはゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝん
ゝにあゝゝゝとゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

氏神よまうでのひそうふこんゐばうさたにちうひそうあさぎ
のうくはつるほいぞよぼ事より給つりて後てまうくる
大ゐくをうのゐもけうこそへ神代のことも云いばうへん
とてゐふもうれうとやゐひそんいうぐおりひそんきうばうし
(七十七) 昔ゐむしれみうどうとゐんどおりうまうそうの時は女房ゐゐ
きことゐみまそうけうゐ神うせゐひて安祥ちたんゐまばそう。
人くちげおうてまうけうゐ事りあつめうるおちうさげううあうと。
そうづのうけうりのとゐあのそうざゐよつけてだうづのゐくうそうれゐゐもう
ゐよだうくのまくようごたいうそうやうにうんうくうゐそもとたうおう
いゐそりけうゐふうらうくのはゐひゆきうたいゐそうてゐうくのと
りる神ゐよ。方ゐしくをめあつめてけゐのうんつゐをゐうてまれん
ざくみうき方ゐませゐうゐたのむまれうみゐううゐ飛めへうびゐうくゐうう
ゐのうゐうつうてけうまあうくはまうのつれをとうとうのうび

とうみううを今うこれうびうくもあうざううそうゐうそのうこゐもゐ塩りけんゐれ
(七十八) むうしたうきうことゐ女沖おりくはうそうゐうせうひてうゐ七日の
みううゐ。安祥ちけうてまううりゐたうたうたうふうらうれうつゐひゐうさうくうゐ
いまうぞゐりうとうりゐうのみけうざうはゐうでゐうひてゐくうさうゐ山うゐれうびん
のうんうこれけりまたうそのゐ山うまゐのゐうゐ。たうきゐうくくくけうせ
ううざうくうておりくうくはうくうれううたうゐまううでうたうまうてうくくけ
ううそうにいはうくくまうまうゐどうちうくはいまうざはうくくまううびうおうくひ
いうくううさうゐうくうんうとうりうゐうつんうこうようろうくうびうまうて我のおうまくく
れまううけせうさをうゐうさうたうの大将ゐうゐうそうびうりうくうゐうゐ
ぢうくゐのはうびゐうようゐうぢうゐ山やあううべうきうゐ三条のおうゐみゐうゐうさうく
けうきの国のうゐ里のうくゐ海ううそうゐうゐうて山おりうくうさうゐうまれうり
うさうおうりうんゐうゐうさのうくうまれうしううべうあうくゐ乃うんうげうしれうまうくゐの。
うんうぞうにううくゐうりうしをうゐ海うこのうくゐうりうゐうこのゐうくうをうう

んとのこまひてみどいぎんと祓りしてとりたつるとぞ〳〵ぐくも
なくてきねぞのいきしよりはつるゆまきれりぞされをこだに
をまなをぞろぬぐ〳〵とそ〳〵にたゆよ海をあつぞのそはうこゆる
人のをるんぞおをたけをきざみくまたるのこたけ立てをりそう
あくひどもいそたにぐこふらろうんをとうをんをんようのみけまべ
やをなんよりありける

(七十九) むこ〳〵ぞうぐのうたにみとうまれうあてりそうぞはこぐやよく〳〵
こくよみそうぞはあやぐぐこぬそるぞおこをふれよある
つぐかぐふちひろあるぐをうへはたまぐ裏ろあ羽ろあくまざるべき
されはちぐかぐそのうんこぞたのんゆ中れのふしとうんいひそるあめめ
中かぐんゆきひ〳〵れむすめのこ〳〵あり

(八十) 昔おこ〳〵ろへるるあこ〳〵ぞふぐれたこ〳〵へるんありそうぞやようひ
のつぐりうぞうの日あそをとぐるふんのりこへをうをきたて祓る

(八十一) めれつぐぞまあそおはぼるまれらにまいくうもたびとらへば
むこ〳〵たのおかいまこらきこぞいまそのりそうぞかもはのおとうよ。
ムつ家ひろうにあをとこ〳〵おりろくはたろうてずみるひそうぞ神をは
のはぐごりかぐぞきこ〳〵れたろうるひはちりをるふりみぐらのちをさ
にこ〳〵まるあり。みここられそこ〳〵まこをて。おひとよさけのみし
あそびて。夜かりてゆくうぐこふこのとはくおりろうをとをむる
うこよりむぞうこよありけるかこいおをふぞうぐできのふたこひ
ありきて。人にこをかよませをこそこよある
おそぐ女ふろうきにそんあさうぐはよはたりするふふたこうん
とうん後そうぞみられむこいにうけうふあやくおりろうきおこ〳〵あり
うこうもぞうぐみぐ女十よ函の中にあ海とうて二石にかをこうこ石をこうう
けうぞされがうんかのこ義はこ〳〵にこをとめぐ。塩ぐ石にいろきにそんと後ろ
(八十二) 昔これこうけんこをとにみこおりほこうぞふぐにのあるこた。

みうせとて二月ばかりに梅の花ざかりにいとゆかしう
りまけるの時太のむまのかみなりけるをこのあそびまし
時世へてひさしくなりにそれどもそこにはなつかしもせ
で海をのぞみてはるかにやまとうたにかよわりうりうすのの
おぎさのあるのあれ梅ことにおりしろきをまりてあそ梅と
わりてかざしにさしてみるまもみなかたみよりもまさりけるをの
世中にやさしからぬもの世にはあらじとなんよみけるとなん
ちれどそていとゞ梅はめでそれゝきせてはらひさうるべき
ゝそのまれりとはうゝくふぬぬはるるをはなとうとき
せゝかりしきてのうちのうけとのそんとそよれをとりあひ
ふあまの海とうゝ二月ふるうぬみこにむまのかみきまりつゝ
のたまひそのとうてあまの海はれかりにいるとゝ

八十三

後てさうづきさせとのゝまうげまべらのむまれかりみとるをそまりける
かりしたるびさづめふ宮ゝんあまのかりに我いきふそり
みこうをのゝもゝずゝあまひてをゝしゝえゝうゝあびきの乃
ありつゝかりとふはうゝまつわりうそ神ぶ返ゝ
ひゝせとひゝびきまにまるまてべをもあじとそそよ
かりてうゝいゝせるひぬ者ゝるまて海のゝ物ぶしてあるどれ
ゝんこをひてかりうんとゝ二月の月もうまうんとみれぶのむまれのよろ
あるあるにまゝ花もなのかりうゝ海をあるていれどもあるうん
みこにうゝてまつりてきのあるは○
をまうて峯もゝにうのんゝ山のうゝ月をいゝゝじを
八十三 むゝゝんうせとかりひゝ。されゝにみこのかりにおし
まにゝゝにゝものみなるおきふぬはうゝまつわりうそごろへて
実にうりたまふぐりはをうりてうゝんとゝあよおみう

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 京乙-289
ガラス使用

たまひつくたまうとてつらさぢりそうぱしむまのうみりとおうて
はゐとて苔りもすぶまとせしれの枝ぐぢのまれなくみ
ゆ張ぐるぬいやうひのはごりぬぐそうみとあうとのごりであろ
しのひてぐりぬくしはまままでしまままうけうとあるひれ外
みれぐあしたまままてぐりむつうたにおぐまきんとてゆおたに
まままでうるひえのひれふりうれぐるいうあしまあてうんむろ
にまままでおぐみまうふはもぐくいうおぐれうておいしまうまべ
ゆしくちうひていふしのうあぐうのひいできうえうそうさてう
さうひしぐあうえうどあうゆけぐぐもあうれぐえさうぐ。ゆぐれ
ううくうとて
つとれてい養うとぐぐうあうひうゆまうみけてえうとうんとへ
とてうんたうくきふうる
八十四 菅男有ぐう。ゆいゆうあぐ。毋うんうあぐう。毋ゆ毋とと

いうあうすみ張ぐうこいうにうゆばうくいうれぐまうぐとまうれど。あぐ
くえまうでぐひうぐふうありけまぐいとゆれうまうあひ
ぐうぐふまうとぐうにぐみのうぐうけうえあうあぐうきてうれぐふる
あひめれぐちうねうれのあうというべいうくうんまうわきえうれ
かのうぐうううらうたてよあうふ
世ゆにさうぬうれのうもうゆ代うとのうう人乃うこのゆうあ
八十五 菅男有ぐう。ゆうとうはうまうりけ。ゆれぐあうあうあ
てぐう。むゆういかゆのうぐまうでぐう。おうあけのえばうくれぐう。
ゆけえまうでぐされぐゆうのうまうおうぐまうでけうふうの有ぐる。
むうはうまうまうしうぐうゆせんぐうるあまうまうのうあうまうて。
むゆうれゆまうとうとうおうみきうのひうぐ。ゆうぐうぐうとうふうて絵日
うやまうぐぐうゆうてゆうにうりうめれうとうをゆうて。ゆうあうぐう
ゆうぐうゆ。ゆをうまけ絵ゆめうれせうゆうのうにゆうぐうぐうるうる

やとゝ侍りけれバみこゝとゝあつれがりのみてゆぎてぬぎてゆきあつれ

八十六

むかしゝとワきき男ワ心女とあひいとりそりとのくおや
有けれバこゝていひしてゆきにそりゆ。年ハ八十。女の年よりれん
ざゝとゝさんとゝやゝひゝん男ゆをうん侍でやれりきり

新古今

今までゝとれぬ人ハせゝもあじをのゞさゆゞくとゝのゝめをゝべ
とゝてゆきにそり男も女もあひゝゝゝとゝぬゝゝばりゝよゝん出ゝたゝる

八十七

昔男ハの國むゞゝの郡あゝやの里よりゝよゝきていきゝて侍り昔男ゝ

新古今

あゝの屋ぬゞゝのゝやゝきゝゝゝ

そきぬ女ぞうぞくとたつさにりて門へをあるいて出
ぬるぞいとりあをり
にぶり海のぞにさすとしつきみぐるあはれ海ざるとり
ゆふうへ乃ふりてはおもれるやそこずや

八十 昔ぞとりたよおぬぎれを左ぐらだ葉て月とんそくれ兼ひとり
おそくこの月をもめでこれぞこのほれべへ乃おいてうれたるの

八十九 ひとりゆうぬ男我よりはあさるる人とこひみて来へる
人をれぞ口をとるをあぐきうくいづれのみうるさるおもをん

九十 むかしはもとみたへをいそとおりひとりを独ぶあれや
ふひんぞおをりのぞいてりけるぞぎりうくれく
ふうこぶしりれべおりうるとけるちてにつあて
桜をたそこそのくもおりへあるぞのこあをれのあを
かぞいへきろろだへもあるべし

九十一 むかしは男やよひたごりうるよ
おくもまれのぎりのそ乃月のゆぐれなさ人をそうるか

九十二 昔ぞふきうへまとぞ女にせそこそぞにえんせそ海る
あべぐたをしをぞひそびゆさぞうんまるひもあすみ

九十三 むかし男乃へやりてぞふれて人をこひけりりすにし
のこぬべきさ海や宵えんぞてこひぞきてこひありいまぞて海る
あふみくさひなにぐしぞへなりあるれゆきうるうそり
むかしものれてこへ世のたてうるやありきん

九十四 昔男のそりぞ宵えんそ男をまぶあてそうのらこやこと
ふそれぞこのそ中ぞそれべこ海るふこそあるれぞ海ぐれ思ひとこ
せそり女ぞこれるへへすりけるべぞきふやれりるとぞまのれこと
の海すそてひこひろとこせぞりうるうの男へこはくをのぎこ
ゆふるとぞへまぞ海るひべぞそうとそへぞ程へをぞへみつべこさ

拾よう有るとてぞじて侍てゆれりけるぬ秋よう有てる
秋のよはまに首はとるく拾るれやかをみよきりやちへはさるん
やうんよりありけふ。女うへ
ちくれ秋ひとつれよまにしちあやう
やうみぢもえもこれてそちを
九十五 首二條の后よぼうまろる男みさう女のはくまつとつく
ようんうくよびひまうそりぬうで拾ごしにいろんてあるつるくこの指
ふる事すにはるうさんとひそれぬ女とあて拾ごに逢ぬうあるとて
ひとりにひはうぬあまの海へぬうせきぬいまいあるくよ
このくにめぐくあひあり
九十六 むくぬ男有うり女をとくいてくぬ首へよりぬをみ
あくあぬぬぬとやうひうんぬうくあれとうひそうをはみる
月はらぐりちりそれぬ女身にかさひくつふうん出きふそう女
いひとうをるぬまいるふのみまぬ身にかさひくつふそり

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 京乙-289
ガラス使用

出そうぶもとあやすすこし秋ぐれふたこらうんときぶすこ
あんとしてうりぶ秋まつころひよどりのこゑ
ゆくへいるんどなるもとぐぐぢらぐきふりけるとばら女の
せこもとぶこころにむくよりまうりぶこれば女のえでのこりみぢを
ひろこせて方を後てひきはけてをこせこり
秋ふけていひこぐもあれくふあの菜ふりまくえたこそ
とぶこもとてぶこりくをこせぐこれをあれこそいぬさそやぐそ
のちぶはあけくまぐきまぐこぐぐよくてやあくんぶい
みこあもこくぐぶのおとこあまのさうまとらてうんぶのろい
をるなるむくづけさこぐ乃のろひだこへあふやあくん
おこくぬりのくやあくん今こまこそへうんあくぐていくなる
(九十七) 昔ふりぬのおぶいまくらきみとりんぶいまこそのよこり
平の於ん五条の家にてそれころ内中将ふりくるおきふ

けくくえたりうひくれおらくはとくあるたまぐふふ
(九十八) 昔おぶきわいまくらきみときこゆるおりこりぶはくま
つる男長月つこれひあのはこり枝よきぐとぶけてなりとて
ぢくのむあがたあみとおるれいをこれいるあぶでありける
と後ぐきまくりそれべいとあくおくりがきまりしく。
使ふりくくふくりもり
(九十九) むしたんをのこる傷のひこりれ月むしひよそこりける東国安乃
四平のここすぐれふりあのふくくれば中将ふりける男の後でありる
みぐもあぐくんをぬくのこひしくくあやあくけるやぐあくこん
まるこりぬぶりあやかくくれてひくくんとひのくこそこるぐの紀
のちくくれとこりにそり
(百) むくこ。おとこ後源氏のこぐるぬとこりけるぶあるあんぐくか
きくん乃ぶつぐ〇ふりぶとれ者をこのぐ者くやいとそぐぐこを

さうなりそれぞたまつりて
まれ草あるのべとなりるあどさはものどなりのちもなめん
百　むかし。たゝ家猶ありけるありけるこのゆきひとしてさうりのう
人乃家よりたさけありときてうへよまそる。九中納言ふぢわら
のはさちらといふとうんぞまらうとざねしてそ良へあるじまうけ
まうさけるふるまひある人ゝまく。あるよ花をさせうのえだ
あやしきふぢのえだをうり。あれまるひこと人立まづうるあり
けるぞうをえだにつけてよむよみてをこたのあるじ
まのかやゆえまうゝ絶べうへてよきせる。のとうるこの
るはまうざりけるどべさるひそれど。まあそよきせられべうくまん
ちくえのまうに四るる人あやまあうしにまるふぢの陰うし
あるぞ四しもよむといひそれべあふきれゝこのあいぞのさうに
みまどうりて花氏のまゝふさうゆるとまひそよあうまえいひ

百　昔。男ありけるぞ世中とあひまうまうる。
あてなる女のあまにまうりて世中とあひうむじて。あはもあはざる
うるれぞいざまにとみうりうりはまぞまうりけるいべ後でありる
ろむくとて安まよのあはあれど世のうれまとぞとそのるそよ
とぞんいひやりける。女まよりまやなり
百　むかし。男ありけりとまあるよ。ちよまはくあざるるころ
うりうりふうくさのみどふうんはうまうりけるあやまりや
まうりうんみまうられはうひのひるるくをあひうりうりさて
家ある家の妻とまるるみまどうるめいやはまあるまる
とうん陰ぐくやりけるはるうまれきまうるのさよ
百　昔。おとなることうくておまれるるあるるのうてうとやはし
うれどはやゆるのりうんのまうりうんよまうりけるど男陰である

世ゝのあはれ人をみるかくはせよとも者のまるかる
きれいの物つくるひとるぞ海ろのくきこゝろそれ
ぞつんさゝてうゝりるひふそうとうん

百五 むゝおとこかくてはあめぐりとうりそれが女
ゝゝるおけるべんきゝずとてなまふかくべきゝあるを
とゝりそれぞとあゝとゝひそれぞかゝいやはさうきあり

百六 昔男みこゝろのせゝうゝりしめ和はまゝでゝうゝこの名ゆて
ちゝやゝる神代もきゝたゝるこのかゝゝれるのゝよあゝぞはとは

百七 むゝおてうる男ゝゝゝりゝそ男のりゝゝりけゝゝを思ゝ
ゝゝるゝ歌ゝれゝゆきとゝゝゝよりひゝりゝされゝまゝゝりそれぞゝみゝ
おゝしゝかゝたゝとゝもゝひゝたゝいゝんやゝゝゝ後ゝりゝれゝ波あゝ
ゝるゝあんをかきてかゝせてゝりゝりめゝまゝゝひゝゝりゝそ男の後ゝる
はゝゝゝれゝゝあゝはゝゝゝ海ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝいのおゝゝゝ女ゝりかゝりて
あゝゝんゝゝゝ神ゝひゝゝあゝるゝゝみゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 京乙-289
ガラス使用

（百十）むかし、おとこ、ねんごろにかよひけ
ることよひゆめよりんぷんこゝろひつるとしてりそれがおとこ
こひわまりいぞかりあれあるゐんぶ彩ふくてがなむすびせよ
（百十一）昔男、ねんごろに女ありけり。男、ゐなかにいまして
いみじくかなしがりて、いとまこひていでたりけるを、
女、はかなくてやまひつきて、心ぼそくなりにけり。
女、はかなくてやまひつきて、心ぼそくなりにけり。
男、かへりきたりて、
（百十二）むかし、男、ねんごろにいちぎりけるをんなのもとに、
女、はかなくてやまひつきて、心ぼそくなりにけり。男、
（百十三）むかし、おとこ、やりあはせてわ
ぶるうたいとふかくいとふんでぎきあるうたうん

（百十四）むかし、にんぎやうのみやづかへしける人、
おとこ、あがりがたくこひこれどもつきなふる事をうれしがりてあるうたの
ひとつをかきつけてやりける。
おきなさびにけるかりのこゝろもけふのとこそなりぬる
わたりあけのはるのきあるりそのをのがよりひとをおりひをも
ぜんりのこゝろあるにんぎやうをやる
（百十五）むかし、みちの國にて女すまこゝろるを、男、ねんごろ
いとしがりてこゝろふかくてむまのそるむけをそこをせんとそおもふ
のかてこゝろざしをといふかてそさけのまをせてよあるふ
をそのかてをやるもかれぎきやこゝまのつれなりけり
（百十六）昔、男、すゞかやまをこえて國まで、ゆくに、
ほまようこんゆるぶ海のくまびとひさくうりぬ者あひて
行くすゑ、みなよくあはれがりけりとぞいふんぶひやりける

百七 ひとみごと。位者より初参りたまへりそ
れをもひさしくすりぬ位者のきこえ
わうん初げゆうしくあるうして
百八 むつまじと思ふまどやうづくれの人きせうひそめて
昔男。人しくをとせでひとるふりまんとうそれば
みづからまあまぐにすりぬれば幸にあのうれげまし
百九 ひとみ。女のあぐちるおとこのうみとそ
ぬうみそのうあぐうれまとうぐひとるはそあまりの紙
百十 ひとみおとこ。女のまぐせへどとおぐこそるふぐ人乃世りめと
うちのびて。りのきたうてのらちぐくく
そらするはくまのまうりうせんつれるに人はまるのうばうん
百一 昔。おとこ。梅つぐようあはれて。のまうりうづるをうんて
うぐひとのそれをぬとてふのさるあるあ人はきをてうくうん

うぐひきのそれをぬとてふのさいふひとはげようてかくうん
百十二 ひとみ。おとこ。ちぎりるるすあやまれるくう
ふるれめぞのそあるあるにむすびるのみうひもうに世ようう
とぐひやしどいくくもせど
百十三 ひとみ。おとこありそうぐ。浦まことをみそる女をぐう
くあきぐうやおりひそんぐうんぐうぐうんそう
女人の 百十四 うをくすみまうさ紙世ていぐぐ浦まみとやあれん
砂とあぐづうあくうきをうんかうふうやハえハこざうん
とぐありそうふぬぐ。ゆうんとうふまうろをうりにそう
百十五 ひとみ。男ぐうりけるおとふ紙ふひるぐあうにうある
おりふとひそぐぐあにゆくうぬべき我とひとき人うみまべば
百十六 ひとみ。おとこぐうひておうちまあぐくおぐとそれば
ぬゆうみちとうひてきしるどきのふそふふうぐうりを

近代以特使事爲端々本出来末代々人
今案也更不可用々此物語古人流不同
或称在中將々自書或称伊勢々筆作然
彼此有書落事等上古々人強不可尋其
作者只可翫詞華言葉而已

戸部尚書 在判

寶暦六丙子年初冬吉辰

畫工 月岡丹下
彫刻 藤村善右衛門
書林 大坂心齋橋筋順慶町 柏原屋與市版

国立国会図書館 タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 京乙-289
ガラス使用

京乙
1
289

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 京乙-289

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 京乙-289

ガラス使用